

太 白 山

(令和3年3月発行)

宮城県さわらび学園

〒982-0215

仙台市太白区旗立2丁目4-1

TEL : 022-245-0333

FAX : 022-245-0515

<http://www.pref.miyagi.jp/sawarabi/>

学園ホームページもご覧ください

「卒業生に向けて」

園長 平間幹夫

卒業生の皆さん、御卒業おめでとう
ございます。

皆さんは分教室で毎日一生懸命勉強
しました。また、学園生活においても自
分の課題に向き合い、改善するために
努力を重ねてきました。

これから皆さんは高校進学をはじ
め、自分で決めた道を歩んでいきます。
これまで仲間と一緒に分教室で学び、
学園で生活できたことを大きな自信に
して頑張ってください。

今後、生きていく中で、自分の思い通
りにならないことや突然のアクシデン
トに見舞われることも多々あります。
そのような時には北風に負けず春を待
つ木々のように、あわてず冷静にじつ
と耐えることも必要です。

そして、ミスター・ラグビーと呼ばれ
た平尾誠二氏もこのように言っていま
す。「うまくいかなかった時に、人のせ
いにする人は、どんなに才能を持って
いてもそれ以上は伸びない。」と。ぐち
を言うことなく自分の責任を果たすと
ともに、たとえ何度失敗してもあきら
めずに立ち上がることが大事です。
これからも学園から皆さんを応援し
ています。

「卒業生の皆さんへ」

分教室教頭 太田博文

卒業生の皆さん、御卒業おめでとう
ございます。

卒業式が終わり、春の季節が近づく
と、桜を守る職人「桜守」の方の話を
思い出します。

樹齢何百年という桜の木が枯れか
かると、「桜守」の方が駆け付け、桜の
木を見事に蘇らせてくれます。まず、
根っこの大量の土を入れ替え、毎日毎
日桜の様子を観察しながら、必要な栄
養分を入れたり、懸命に世話をしま
す。すると、数年後には花をいっぱい
付けた桜の木へと蘇ります。「桜守」の
方は、『桜は手入れをするのではなく、
守るのです。守るとは、花が咲かない
季節でも、いつも見ていることです。』
とおっしゃっていました。

これまで、皆さんは物事がうまくい
かない時、悩んだり、苦しんだりした
ことがあったと思います。実は、その
時、皆さんはひとりぼっちではなかつ
たのです。皆さんの周りには、そっと
見守ってくださった親や家族、分教室
や学園の先生、関係機関の方など、い
つも応援をしてくださっていたので
す。

今、皆さんは春からの新しい舞台を

心待ちにしていることでしょうか。新し
い環境の中で楽しい生活が始まりま
す。しかし、楽しいことばかりは続か
ないのも現実です。時には、何かにつ
まづいたり、壁にぶち当たることもあ
るかもしれません。桜に例えるなら、
花が咲かなくなる時期でしょう。しか
し、皆さんは必ずどんな時でも、蘇る
ことができます。なぜなら、皆さんを
支え、応援してくれる親や先生をはじ
め、多くの大人が見守っているからで
す。まさに「桜守」といえるでしょう。
困った時は、周りにいる大人を頼って
下さい。

四季の移ろいに耐え、桜が満月の日
を目指して満開になるように、卒業し
た皆さんは、輝く未来に向かって精一
杯がんばってほしいと思います。どん
な時でも、私たちは見守っています。



「卒業式を終えて」

三学年担任 佐々木信太郎

どこもそうであるが、新型コロナウイルス感染症による影響は生徒たちの教育環境へ大きな陰を落としていく。それでも、世の中は、「当たり前」を目指して動き出した。

今年度の三年生の学級スローガンは、「挑戦し今を認め、さらなる高みへ」生徒たちが考えたものである。「世の中コロナで大変だし、今年は受験だし、現状はこうだから仕方ないじゃん。それでも山を登るように、目標に向かって歩いて行こう。」という意味が含まれる。

進路は、一人一人違うのが当たり前なので、途中で孤独感に襲われて不安になる生徒もいた。それでも自分で選択し、自分で決定した道を歩み始めた。卒業式での堂々と胸を張って歩く姿から、しっかりと自分の道を歩まんとする意思を感じ、このコロナ禍であっても、一年間で大きく成長した生徒たちにエールを送りたい。

「卒業文集より」『誓いの言葉』

中学三年 N

私はさわらび学園にくる前の自分の課題は四つありました。

人の意見に流されやすいこと、マイナス発言が多いこと、SNSを正しく使えなかったこと、あきらめやすいことです。これらのことが重なり、学園にくることにしました。マイナス発言は、「やりたくない」とか「無理」「めんどくさい」「なんで？」など今でもときどき言ってしまう。そうなる寮の先生に「マイナス発言は相手をお不快にさせるよ」と注意されます。注意されると、言わないように意識はするけれど、また言ってしまう時もあります。

また、私はスポーツ活動や作業が苦手です。しかし、無理だと思っても、一度は挑戦すれば、できないと思うこともできるようになるかもしれません。これからも自分の課題に向き合っていきたいです。

私の将来の夢は二つあります。一つ目はシンガーソングライターになることです。理由は歌を歌うことが好きだからです。私は小学校三年生から六年生まで合唱部に入っていました。合唱を通して団結の大切さや練習の大切さ、努力することを学びました。私も好きな歌を仕事にしたいと思っています。二つ目は世界で活躍するボランティア活動をすることです。理由

は発展途上国に支援物資を届けようという映像を見て興味を持ったからです。日本は恵まれています。食料や住む場所がなく飢餓や紛争などが後をたたない国や地域もあります。だからこそ私は現地へ行きボランティアをしたいと考えます。

これから大変なことがたくさんあると思いますが、夢をかなえられるようにどんな困難にも向き合っているように学園生活を頑張ります。

中学三年 T

自分の半生は中学一年の頃、サッカー部に入っていて、先輩が怖いから、苦手な人がいるという理由で二か月くらいで退部しました。お父さんに部活の費用や必要なものを買ってもらったのに、すぐに諦めてしまう気持ちが残念だと思っています。なので、自分の諦めが早いところを直したいと思っています。また、学校生活でも苦手な人を避けてしまいました。このように、すぐにあきらめてしまう気持ちや苦手な人を避けることを改善するために、さわらび学園で、よく考えながら生活したいと思っています。

学習面は、数学には興味を持っていますが他の教科は苦手です。今まで、

たくさん時間はあったのに、ゲームなど遊ぶことばかりに時間を費やしたので、これからは中学生としてしっかりと時間を使い方をしたいと思っています。それから、学習では苦手な教科にも興味を持って取り組むことが大切だと思います。自分が「楽しい」と思える教科が増えるよう一生懸命に努力したいです。

私は、学園にきた理由を考えると、自分自身の問題行動、性格などに原因があると考えています。一時保護や学園での生活の中で、「これは、良いことなのか。悪いことなのか。」を考えるようになりました。そして、過去とも向き合わないといけないから、担当の先生や寮長先生ともしっかりと話し合いたいです。私は、自分の性格を直せるように、苦手なところを改善できるように努力し、良い所はさらに伸ばせるように、具体的に考えながら生活したいと思っています。

大事なことは、疲れすぎないように頑張ること、イライラの出し方に気を付けること、自分を律することだと思います。この三つのことを忘れずに頑張りたいと思います。

子ども会係から

子ども会担当 木浪琢磨

今年新型コロナウイルスの影響もあり、配慮する部分も多かったため、例年通りの行事を行うことができません、子どもたちには窮屈な思いをさせてしまいました。行事の行い方をいろいろと変更しながらの開催でしたが、それでも子どもたちは元気いっぱい楽しむことができたと思います。今回は、大きな行事を二つ紹介したいと思います。

一つ目は、八月十八日に開催された夏祭り子ども会です。毎年、食堂で七夕子ども会を行っておりましたが、今回は換気等も考えて屋外での実施でした。射的や輪投げ、スイカ割りなどの夏祭りらしい出し物を楽しみました。うまくできたときには歓声を上げ、思う存分楽しむことができました。夜にはバーベキューと花火をし、最高の夏を楽しむことができたようでした。二つ目は、十二月十七日に開催されたクリスマス子ども会です。体育館では、各寮で練習した劇や、自分たちで考えた出し物を舞台の上で発表しました。どの組も趣向を凝らした発表で、見ている人たちも笑顔になりました。昼食には食堂でクリスマスランチ

を食べました。お寿司やチキン、向山栄養士手作りのケーキを食べ、笑顔あふれる食事になりました。

昼食後にはサンタさん（園長先生）からプレゼントをもらいました。欲しかった物をもらえたため、満足そうな表情は忘れられません。

子ども会役員は各寮から選ばれた代表一名が、みんなを楽しませるために責任感を持ち、一生懸命考え、意見を出しあつて、良い行事にしようと努力してきました。その結果がみんなの表情に表れていると思います。責任感を持ち、頑張ったという経験を退園後の生活でも生かしてもらえればありがたいと思います。



子ども会役員から

中学二年 Y

僕が子ども会役員になって最初の頃は、ちゃんと出来るか心配だったけれどだんだん慣れてきました。そして、ども会の中で一番楽しかった行事は夏祭り子ども会です。なぜかというところバーベキューなどをしたからです。火起こしや焼くのは大変だったけどすごく楽しかったです。

次にクリスマス会です。クリスマス会自体はそんなに準備をしていないけど、僕は司会をやりました。みんな楽しそうにやっていたので司会の僕も楽しくなりました。

この子ども会役員での経験を生かして、今後の生活では、大変なことや嫌なことがあってもそこから逃げず、しっかり向き合っていこうと思います。そうすることで相手とのコミュニケーションも取れて、より良い生活になると思います。これからもこの経験を生かして生活を頑張っていきたいと思います。



保健衛生係から

保健衛生係担当 小原美智

今年度も残すところわずかとなり、一年の締めくくりとなる三月を迎えました。

今年度を振り返ってみると、新型コロナウイルス一色の一年だったと思います。宮城県内でも夏頃には一旦落ち着きを見せていましたが、秋から冬にかけて、感染者数が徐々に増えていきました。周りの環境も、感染予防策を行いながらの生活様式に変わっていきました。三密を避ける、人々との距離を取ること、咳エチケット（マスク装着）を心がける、こまめな手洗い、定期的に換気をするという事が感染を予防するうえで重要なものになりました。

学園での生活も感染予防対策の取り組みが行われています。学園は、たくさんの方の児童や職員が集団で生活する場で、人との距離を取ることの難しさがあります。そんな中で、マスク装着や手洗い、共有部分の定期的な消毒清掃や換気など、みなさんの協力ももらいながらやって来ました。

学園は、感染者が出ていない状況ですが、身近な人が感染疑いになったりと、新型コロナウイルス感染が、身近

に存在するという事を実感させられました。

また、新型コロナウイルス以外の感染症についても、一人ひとりが感染予防をしっかりと行っていたいていするため、感染者を出す事も無く、経過している事に感謝し、改めて感染予防の大切さを感じています。先が見えない状況ですが、これからも体調管理をしつかりと行い、皆様の協力のもと、感染予防に努めていきたいと思えます。

最後に、手洗いについて

さまざまな物に触れた手には、たくさんウイルスや細菌が付着しています。汚染した手で触れることにより、拡散されてしまいます。手洗いをすることで、手についているウイルスや細菌が除去され、自分自身と、まわりの人達への感染を防ぐ重要な予防法です。手に付着したウイルスは、流水で十五秒の手洗いだけで百分の一に、石けんで十秒もみ洗いし流水で十五秒洗うと、一万分の一に減らせます。たかが手洗いと侮らず、これからも、こまめに手洗いをお願いします。

栄養士から

栄養士 向山 加奈子

日々気温も高くなり、だんだん春が近づいてきましたね。

今回はさわらび学園で毎年実施している給食アンケート結果の一部を紹介していきたいと思えます。給食アンケートでは学園児童・職員・嘱託員を対象とし、嗜好調査や現状把握、意見・要望などの項目についてアンケート調査を実施しています。具体的なアンケート結果として「好きなご飯類はなんですか？」という項目ではカレー

ライスが不動の一番人気という結果でした。また、「好きな肉料理は？」という項目では唐揚げ、ハンバーグ、とんかつの順で人気が高かったです。また、「好きな野菜料理」ではポテトサラダが一番人気でした。その他にもマヨネーズ味のサラダやごま油を使用した和え物や炒め物などの人気が高かったです。各項目結果から見ても定番料理の人气が高く、ボリュームがあり、味がはつきり、こつてりとした料理が満足感につながり、人気が高いという結果になったのだと思えます。また、給食についての意見・要望では郷土料理や世界の料理・B級グルメなどの継

続希望や麺食の回数を増やして欲しいなどの意見もありました。日本全国の郷土料理や世界の料理などは月一回位のペースで提供を行っていたので、今後も児童の食経験の一つとなるよう継続して提供を行っていききたいです。また、麺食の回数に関しても来年度からは増やしていけるよう献立作成を行っていきます。

今回のアンケート結果での様々な意見をもとに今後も季節や行事を意識しながら児童に喜ばれるようなメニューを考えていきたいと思えます。

☆編集後記☆

今年度もさわらび学園を御支援いただきありがとうございました。来年度も学園ホームページや広報誌を通じて子どもたちの学園生活を紹介していきたいと思えます。

